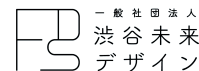


【渋谷区 公共施設における生理用ナプキンディスペンサー実証実験レポート】

公共施設における 生理用ナプキン無償提供の実装可能性

— 衛生性・心理的安全性を備えた提供モデルで「安心」を社会インフラへ —

発行：一般社団法人 渋谷未来デザイン
実施期間：2025年10月15日～12月26日
実施規模：全22施設・49箇所（女性用トイレ内）
アンケート：n=223



● 要旨

渋谷区は、一般社団法人渋谷未来デザイン、ユニ・チャーム株式会社と連携し、区内公共施設の女性用トイレに生理用ナプキンディスペンサーを設置し、無償提供を行う実証実験を実施した。設置は**22施設・49箇所**に及び、公共空間における提供に必要な要件（衛生性・心理的安全性・運用可能性）を、実運用データ（取得枚数、施設別需給差、欠品・補充実態等）と利用者アンケート（n=223）から検証した。

本実証で確認された中心的な示唆は以下のとおりである。

1. 生理用品の提供は「経済的支援」に限定されず、外出先での突発ニーズへの対応と心理的安心の創出という公共価値を持つ。
2. 施設ごとに需要が大きく異なり、運用設計（補充体制・欠品対策・取得ルール）を施設特性に合わせて最適化する必要がある。
3. 利用者の政策支持は高く、取組推奨93.7%、継続希望93.3%。衛生面でも個包装・完全密閉が99.1%に安心感を提供した。
4. 過剰取得・転売懸念、設置場所、相談窓口案内や啓発など、制度化に向けた論点も明確化した。

本報告書は、実運用ファクトと利用者評価を統合し、本格導入に向けた運用モデルと政策提言を提示する。

● 背景：渋谷区が捉える課題と本取組の位置づけ

生理の貧困は、経済的困難だけでなく、外出時の突発事態、心理的負担、周囲の理解不足、情報格差などが複合して発生する。公共施設のトイレは、その最前線であり、誰もが公平に支援にアクセスできる「都市のセーフティネット」を実装し得る場所である。

渋谷区と渋谷未来デザインは、女性が安心して活躍できる環境整備に取り組んできた。

渋谷未来デザインは2022年3月に「わたしたちのウェルネスアクション」を立ち上げ、月経をテーマの一つとして活動を開始。2024年のSOCIAL INNOVATION WEEKでは「生理の貧困を超えて」をテーマに、行政・企業・メディアが議論し、経済的困難に加えて生理や身体に関する情報格差・理解不足が大きな課題であることが明らかになった。

2025年1月以降は、渋谷未来デザインとユニ・チャームが渋谷民を対象にライフプランニング啓発活動を協働で展開している。

本実証実験は、これらの取組の一環として、渋谷区公共施設での提供を実運用で検証し、ニーズ把握と施策・啓発へ反映することを目的に実施された。

● 実証実験の設計：衛生性と心理的安全性を前提にした提供モデル

区内公共施設での実証実験実施にあたり、衛生面や心理的安全性にも配慮したデザインのディスペンサーを採用し、安心して利用できる環境を整備した。

生理用ナプキンは「個包装かつ完全密閉パッケージ」仕様で、ひとつずつ取り出すことができるディスペンサーをトイレ内に設置した。この仕様により、急な生理への対応だけでなく、経済的・環境的な事情で生理用品の購入が難しい人も負担なく手に取れる仕組みとした。

【図①-1】設置施設一覧（22施設）と設置箇所数（計49）

実施規模：全22施設・49箇所

カテゴリ	施設名	住所	設置箇所
渋谷区役所本庁舎		宇田川町1-1	18
図書館	中央図書館	神宮前1丁目4-1	1
	西原図書館	西原2丁目28-9	1
	富ヶ谷図書館	上原1丁目46-2	1
	本町図書館	本町1丁目33-5	1
	臨川みんなの図書館	広尾1丁目9-17	1
	代々木図書館	代々木3丁目51-8	1
	笹塚こども図書館	笹塚3丁目3-1	1
社会教育館	幡ヶ谷社会教育館	幡ヶ谷2丁目50-2	1
	恵比寿社会教育館	恵比寿2丁目27-18	1
	長谷戸社会教育館	恵比寿西1丁目23-4	1
	千駄ヶ谷社会教育館	千駄ヶ谷1丁目6-5	1
	上原社会教育館	上原3丁目13-8	1

カテゴリ	施設名	住所	設置箇所
スポーツ施設	スポーツセンター	西原1丁目40-18	2
	ひがし健康プラザ	東3丁目14-13	2
	代官山スポーツプラザ	代官山町17-9	2
	猿楽トレーニングジム	猿楽町12-35	1
	本町CC本町コミュニティセンター	本町4丁目39-1	1
児童青少年センターフレンズ本町		本町6丁目6-2	1
渋谷区子育てネウボラ		宇田川町5-6	7
渋谷インクルーシブシティセンター〈アイリス〉		桜丘町23-21文化総合センター大和田8階	2
区民サービスセンター、渋谷生涯活躍ネットワーク・シブカツ		渋谷2丁目21-1渋谷ヒカリエ8階	1

● 実証実験の設計：衛生性と心理的安全性を前提にした提供モデル

【図①-2】設置箇所写真

<p>渋谷区役所本庁舎</p> 	<p>中央図書館</p> 	<p>西原図書館</p> 	<p>富ヶ谷図書館</p> 
<p>本町図書館</p> 	<p>臨川みんなの図書館</p> 	<p>代々木図書館</p> 	<p>笹塚こども図書館</p> 

● 実証実験の設計：衛生性と心理的安全性を前提にした提供モデル

【図①-2】設置箇所写真

幡ヶ谷社会教育館	恵比寿社会教育館	長谷戸社会教育館	千駄ヶ谷社会教育館
			
上原社会教育館	スポーツセンター	ひがし健康プラザ	代官山スポーツプラザ
			

● 実証実験の設計：衛生性と心理的安全性を前提にした提供モデル

【図①-2】設置箇所写真

猿楽トレーニングジム	本町CC本町コミュニティセンター	児童青少年センターフレンズ本町	渋谷区子育てネウボラ
			
<p>渋谷インクルーシブシティセンター 〈アイリス〉</p>	<p>区民サービスセンター、渋谷生涯活躍ネット ワーク・シブカツ</p>		
			

● 実証実験の設計：衛生性と心理的安全性を前提にした提供モデル

【図②】ディスペンサー仕様（衛生設計・取り出し方式）

完全密閉型
個包装ナプキン
（『ソフィSPORTS羽つき』）



協力企業

ユニ・チャーム株式会社
（生理用品ディスペンサー・生理用品提供）

プラスチックボックス設置
（蓋付き）



ダンボールボックス設置
（1枚ずつ取り出し）



● 結果：施設運用データで見た需要と運用課題

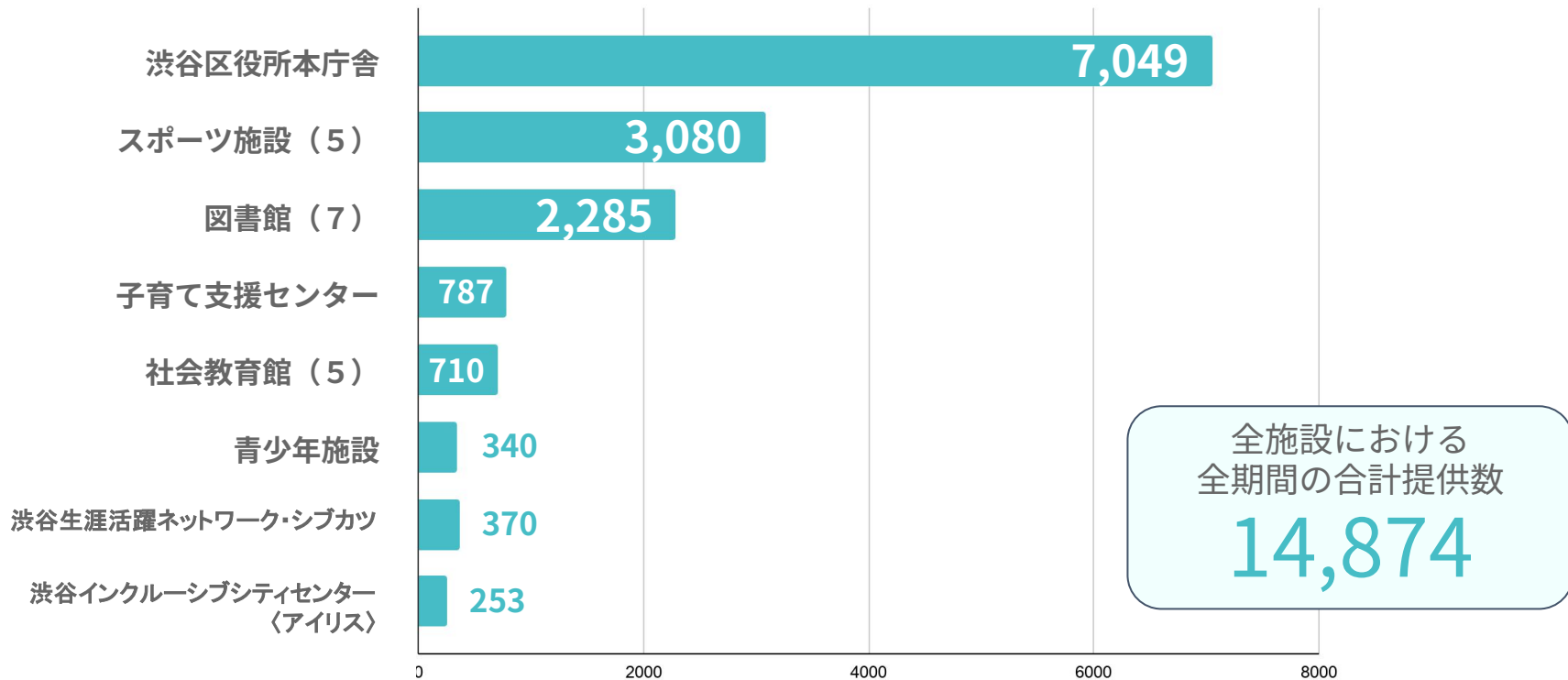
本実証では、各施設における取得枚数・欠品・補充の実態や、施設種別による利用状況の違いなど、運用上のファクトに加え、利用者の満足度、意見を収集。公共施設での提供が「実装可能かどうか」を検証した。

結果のポイント

1. 施設ごとの需要差が大きい（高需要施設と低需要施設が明確）（図④-1、④-2）
2. イベントや来訪者増などによる需要急増がある
3. 欠品は「利用体験の毀損」につながるため、最低在庫と補充ルールが鍵
4. 取得が多いことは一概に“悪”ではなく、背景に困難が潜む可能性がある（支援導線設計とセットで考えるべき）

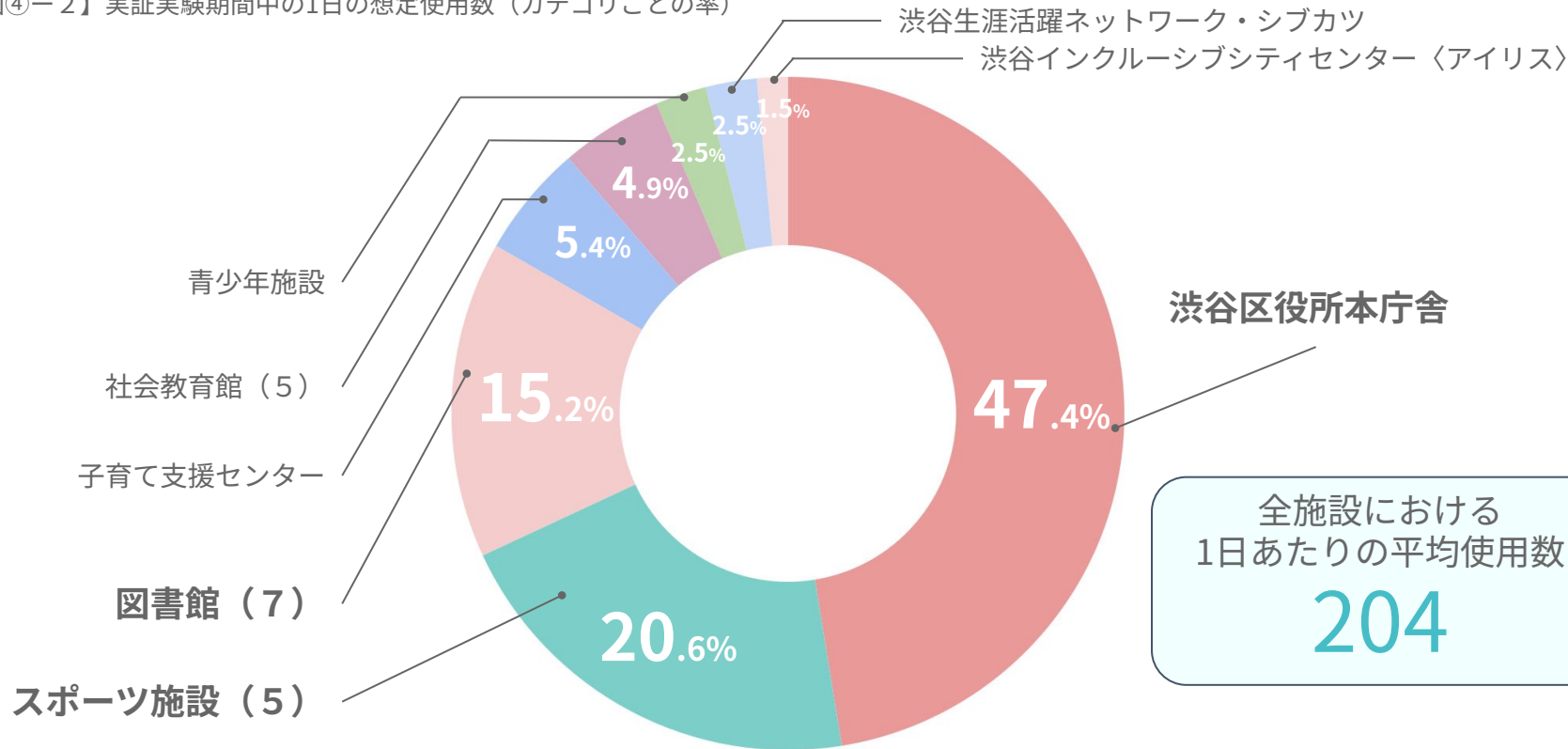
● 結果：施設運用データで見た需要と運用課題

【図④-1】 実証実験期間中（73日）のカテゴリごとの合計提供枚数



● 結果：施設運用データで見た需要と運用課題

【図④-2】 実証実験期間中の1日の想定使用数（カテゴリごとの率）



全施設における
1日あたりの平均使用数

204

● 結果：アンケート（利用者評価 n=223）

アンケートでは、実運用で起きている“需要”の背景と、“公共施策としての受容性”を補足的に把握した。

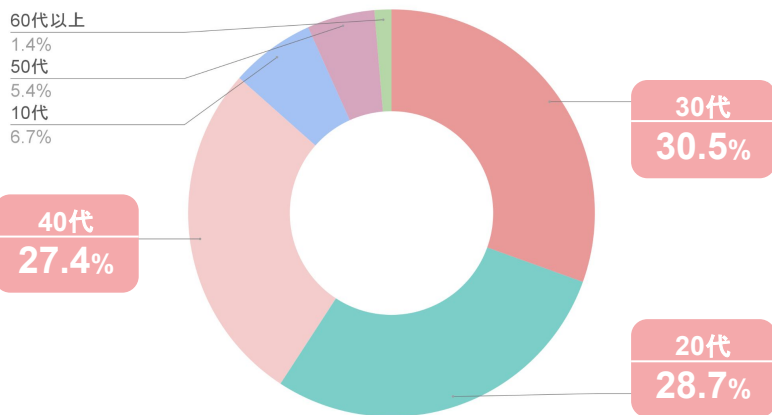
結果のポイント

- 回答者は20～40代が86.6%で、生理用品が必要となり得る層の声が中心。（図⑤）
- 取得目的は「手持ちがなく、その場ですぐに使う」が約半数で、突発ニーズが中心。（図⑥）
- 急に必要になり入手に困った経験は「よくある」「ときどきある」で77.1%超。（図⑦）
- 一方、経済的理由で購入できなかった経験は10.7%であったが、課題は“経済的理由”だけではなく、持ち歩き・補充の負担、物価上昇下での心理的節約圧、周囲の目など多層的。（図⑧）
- 取組み推奨93.7%（図⑨）、継続希望93.3%（図⑩）と支持は非常に高い。
- 使い勝手93.3%（図⑪）、個包装・完全密閉の安心感99.1%（図⑫）で、公共空間での提供要件として衛生性が極めて重要。

● 結果：アンケート（利用者評価 n=223）

【図⑤】回答者の年代

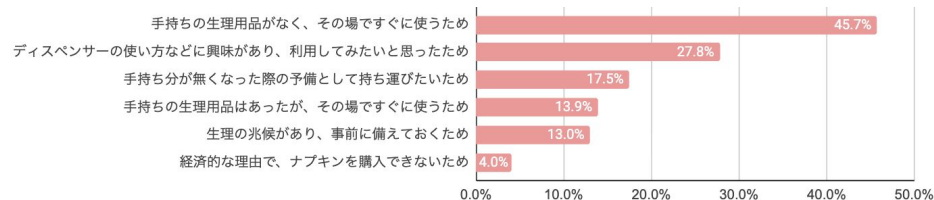
あなたの年代を教えてください（n=223）



生理用品を日常的に必要とする年代が主な回答者 **86.6%**
 (20代+30代+40代)

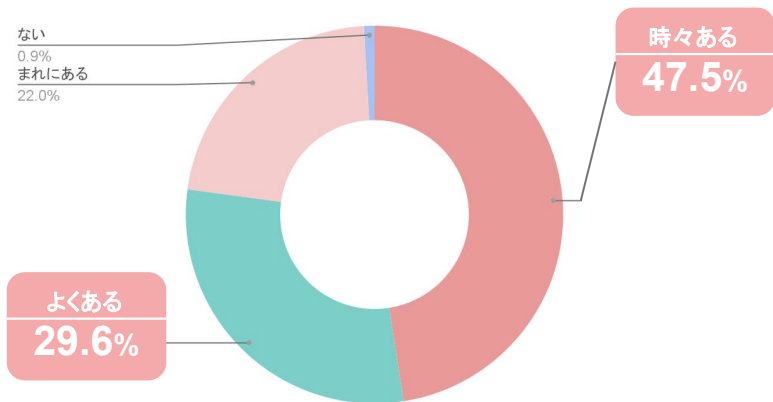
【図⑥】利用目的

生理用品ディスペンサーからナプキンを取得した目的について、当てはまるものを全て選択してください（複数選択可）（n=223）



【図⑦】生理用品の入手に困った経験の有無

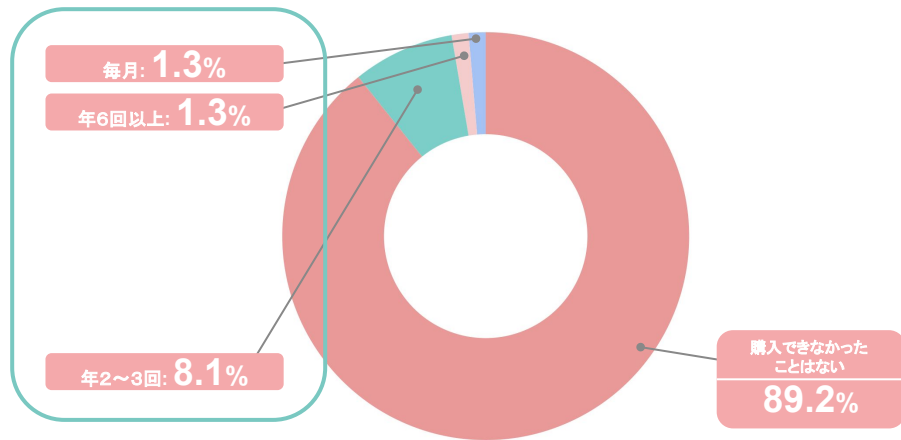
急に生理用品が必要になり、入手に困った経験はありますか？（n=223）



● 結果：アンケート（利用者評価 n=223）

【図⑧】 経済的理由の有無

これまでに経済的な理由でナプキンを購入できなかったことはありますか？
(n=223)

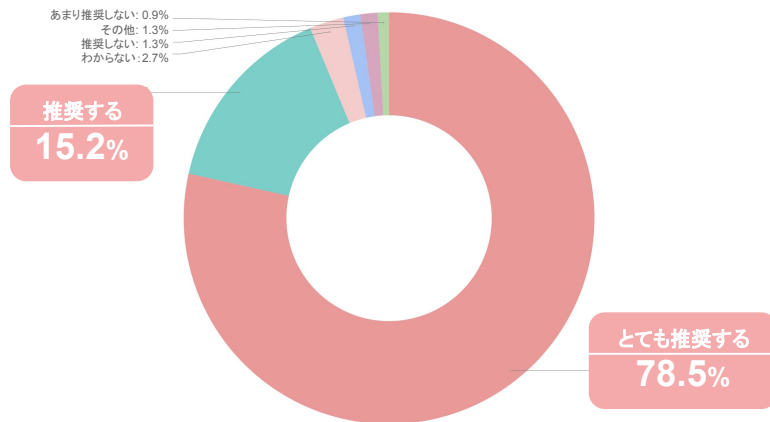


経済的困窮により
ナプキン購入ができない
(年2~3回+年6回以上+毎月)

10.7%

【図⑨】 利用者の施策推奨度

現在実証実験を実施している、「渋谷区の公共施設のトイレに生理用品ディスペンサーを設置し、ナプキンの無償提供をする取組」について、当てはまるものをお選びください。(n=223)



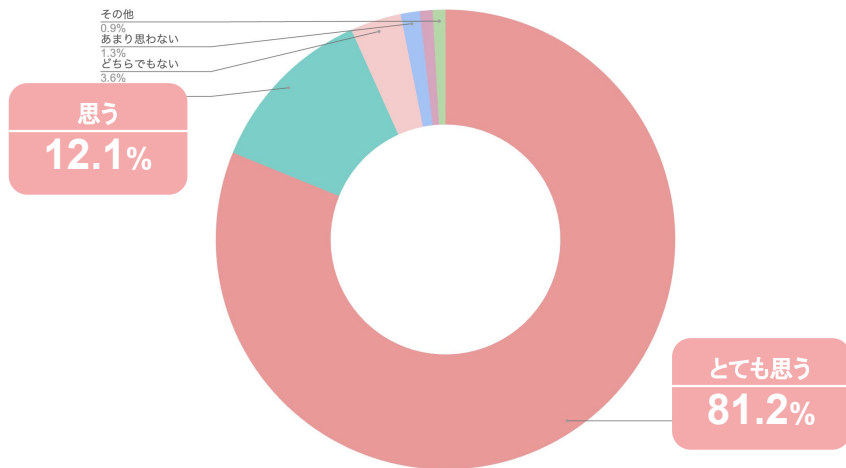
利用者の推奨度
(とても推奨する+推奨する)

93.7%

● 結果：アンケート（利用者評価 n=223）

【図⑩】 利用者の継続希望度

今後も渋谷区の公共施設に生理用品ディスペンサーの継続設置を希望しますか？ 当てはまるものを1つお選びください。（n=223）

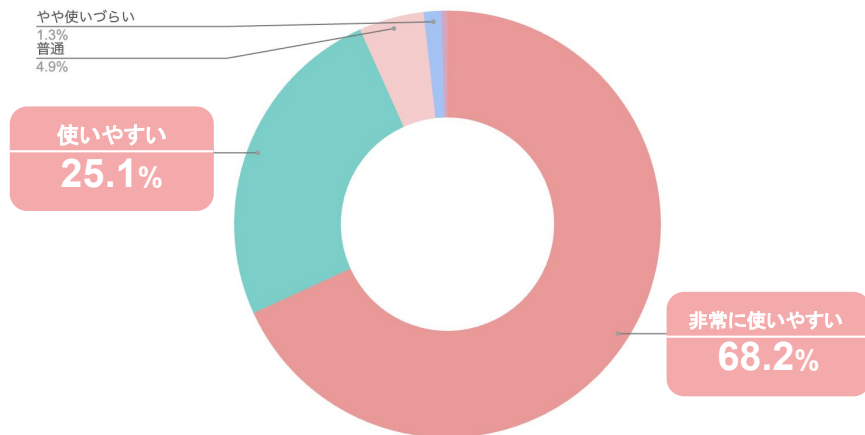


利用者の継続希望度
(とても思う+思う)

93.3%

【図⑪】 ディスペンサーの使いやすさ

生理用品ディスペンサーの使い勝手はいかがでしたか？（n=223）



使いやすさ

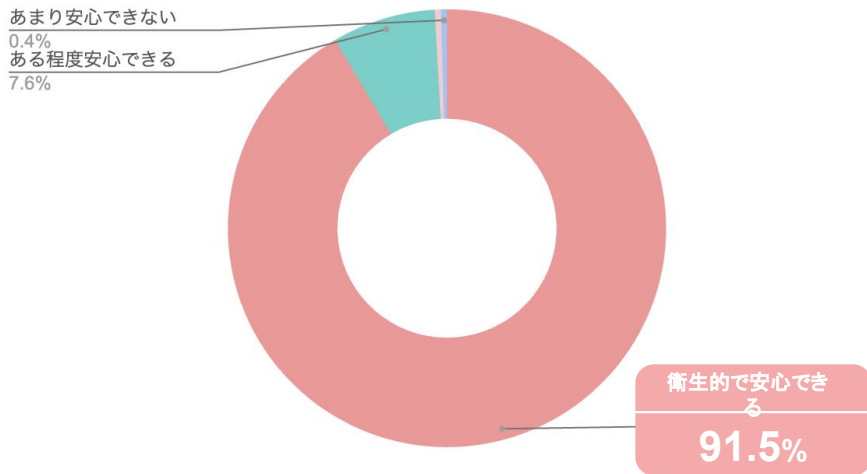
(非常に使いやすい+使いやすい)

93.3%

● 結果：アンケート（利用者評価 n=223）

【図⑫】 公共施設における完全密封個包装ナプキンに対するの安心度

個包装かつ1つ1つが完全密封されたナプキンについてどう思われましたか？（n=223）



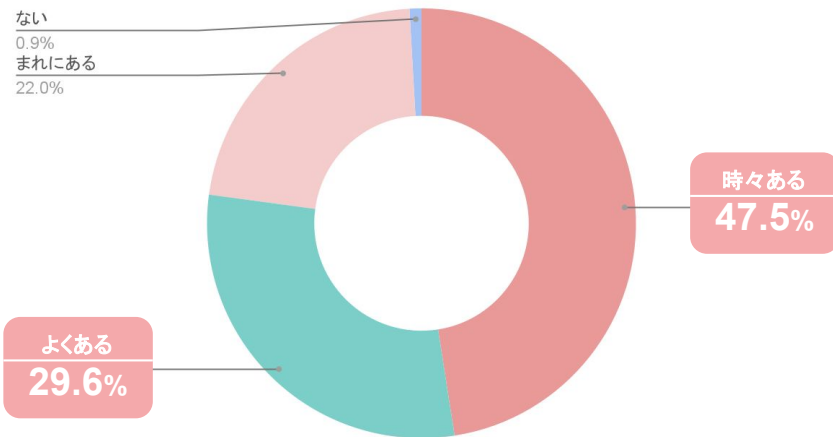
利用者の安心度

（衛生的で安心できる＋ある程度安心できる）

99.1%

【図⑬】 困った経験

急に生理用品が必要になり、入手に困った経験はありますか？（n=223）



困った経験の有無

（時々ある＋よくある）

77.1%

● まとめ

この施策の提供価値は「セーフティネット×心理的安心×社会的メッセージ」

実運用データが示す“需要の存在”と、アンケートが示す“高い支持と安心感”を統合すると、公共施設での生理用品提供は以下の価値を持つ。

1. 直接的な物理支援

突発的な生理・持参忘れなど「誰にでも起こり得る困りごと」への即時対応。

2. 心理的安心

「設置されていること自体」の安心感。周囲の目や行動制限の軽減。

3. 社会的メッセージ（行政の姿勢）

女性活躍支援、インクルーシブな都市の意思表示。災害時も含む安心の基盤。

また、自由記述からは、若年層から更年期・高齢者まで多様な状況が示され、年齢やライフステージによって困難が変化する中で、本施策が特定層に限定されないセーフティネットとして機能し得ることが示唆される。

● 制度化に向けた課題

運用設計と支援導線が“成功条件”

本格導入に向けては、以下の論点を制度・運用として設計する必要がある。

運用（ガバナンス）

- 取得制限・ルール（過剰取得／転売懸念への対策）
- 補充体制（施設別需要差に合わせた体制）
- 欠品対策（最低在庫・巡回頻度・繁忙期設計）
- 無償／有償（ハイブリッド含む）の検討
- 管理KPI（欠品率、補充工数、利用動向）

設置（デザイン）

- 触れずに取り出せる構造、戻せない構造など衛生性の進化
- 設置場所（個室内／視認性とプライバシーのバランス）
- 施設特性に応じた機器選定

支援導線（インクルージョン）

- 相談窓口案内の併設
- 学校・子育て施設への拡張
- 啓発（正しい生理理解）をセットで実装

● 「実装モデル」に向けての提言

提言 1：施設タイプ別の導入モデルの策定（需要に応じた運用設計）

22施設・49箇所の実運用で、施設ごとの需要差があることが前提として示された。

区役所・図書館・スポーツ施設・子育て施設等、施設タイプ別に以下を標準化し、運用の再現性を確保する。

- 補充頻度
- 最低在庫
- 繁忙期（イベント時期）対応

提言 2：「衛生性・心理的安全性」を公共調達要件として明文化する

個包装・完全密閉は安心感99.1%を生んだ。公共空間での提供の前提条件として、以下の仕様要件を明文化する。

- 個包装／完全密閉
- 1枚ずつ取り出し
- 触れずに取得できる

● 「実装モデル」に向けての提言

提言3：“セーフティネット”としての役割を明確化し、支援導線を併設する

突発ニーズ対応（77.1%が困った経験）に加え、困難の可能性を拾い上げる設計が必要。
トイレ内提供＋施設内掲示（相談窓口・支援制度案内）を標準セット化し、必要な人が支援に接続できる導線をつくる。

提言4：過剰取得・転売懸念への対応は「抑止×補充×データ」で設計する

性善説／性悪説の対立ではなく、以下設計を組み合わせ、持続可能性を担保する。

- 取得目安の掲示
- 施設の補充ルール
- 欠品検知
- 需要データの把握

提言5：啓発をセット実装し、学校・職場・家庭の理解不足に対応する

「理解不足」が多く挙げられたことを踏まえ、周囲の理解促進（男性含む）を目的とした広報・啓発を、設置施策と連動させる。

● 「実装モデル」に向けての提言

提言6：KPIを設定し、官民共創で継続改善する

以下のようなKPI設定を官民連携で共通目標とし、PDCAを回し、制度化後も改善可能な運用体制とする。

(KPI設定の例)

- 施設ごとの適正使用数の予測精度（消化率）
- 補充工数
- 利用満足度（利用者アンケート）
- 相談窓口案内の認知率（利用者アンケート）
- 啓発到達度（利用者アンケート）

提言7：本格導入に向けたロードマップの策定

実証実験で得られた内容を踏まえ、導入に向けての具体的なロードマップを策定する

- 公共施設への段階導入（優先施設から）
- 施設タイプ別運用モデルの確定
- 相談窓口案内の標準セット化
- データ（枚数・欠品・補充）に基づく改善サイクル運用開始
- 学校・子育て施設への拡張検討（別途検証）

● 当レポートに関するお問い合わせ

一般社団法人渋谷未来デザイン

「わたしたちのウェルネスアクション」プロジェクト担当宛



info@fds.or.jp

一般社団法人渋谷未来デザイン 公式サイト

<https://fds.or.jp/>

「わたしたちのウェルネスアクション」 公式サイト

<https://womens-wellness-action.com/>

実証実験へのご協力ありがとうございました

本実証実験は、ご利用者を含め様々な皆様のご協力により実現しました。

今後も渋谷区におけるさまざまな施策を通じて、
より多くの方々が安心して外出・就業・学習できる環境整備に取り組んでまいります。